

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、  
 未来をたくましく生き抜く生徒の育成

命について考える 3

命について考えてみる最終回は、「命の原点」についてです。

命の原点は何か。それは母親の胎内で、700万個の「卵子のもと」の中のたった1個の卵子と、3億個の精子の中のたった1個が出会って受精することです。しかし、受精しても無事生まれくるのはそのうちの半分ですから、数えきれないくらい、無限大とも思える数の可能性から、たった1つ選ばれてこの世に生を受けるわけですね。

しかし、まだまだすごいことがこの「**命の誕生**」には秘められているのです。

私たちは1年間でどれくらいからだが大きくなるでしょう？たとえば身長は3センチ？4センチ？もし5センチも伸びれば、「すごく伸びたねー」といわれますよね。

ところがお母さんのおなかの中では、針の先で空けた穴ほどの大きさだった受精卵が、わずか280日あまりで、大きさにして2000倍、重さにすれば60億倍にも成長して赤ちゃんとなるのだそうです。驚異の成長ですね。

しかし、ここで安心はできません。生まれ出るとき最後の厳しい試練が待っています。それは胎盤の呼吸から肺の呼吸に切り替えることに成功しなければなりません。

赤ちゃんは肺がペシャンク<sup>ぺしゃんく</sup>になったままで生まれてくるそうです。生まれ出た瞬間空気を吸って肺をふくらませ、その空気をはき出す「**産声**」をあげなければなりません。

これは陣痛のストレスに耐えてきた赤ちゃんにとっては、ものすごいエネルギーが必要な、一大事業なんだそうです。

今私たちが生きているということは、まさに『**奇跡**』に近いできごとなんだということです。

あなたも、あなたの周りにはいる家族や友達も、みんなその奇跡を乗り越えて、偶然 **あなたと同じ時代(時間)を生きている**のです。

生きものはいつかはその生を終えなければなりません。

そのときまで、あなたとあなたの周りの人たちの命を

大切に、大切にしながら生きて欲しい。

なぜならば、あの『**奇跡**』が起こらなかつたら、

絶対に出会えない人たちがばかりだから・・・